



第2回みんなで
やってみよう科
2019年10月6日(日)
16:20～17:20
ゆうゆうセンター4階
参加者24名

講演会后、意見交換会を開催しました！

「地域と共にある交野らしい学校」をテーマに開催した「かたのあしたのがっこう 講演会」の後、第2回みんなでやってみよう科を開催しました。講演会にご登壇いただいた3名のゲストに参加いただき、講演会やトークセッションで話し合われた内容について、さらに聞いてみたいことを話し合いました。地域に開かれた「あたらしい学校づくり」にむけて、さまざまな意見交換ができました。



ゲスト紹介



岩佐 武司 学園長

(凌風学園京都市立凌風小中学校)

義務教育学校の凌風学園に平成27年から教頭4年(副学園長2年)を務め、平成31年4月より現職。



横山 俊祐 教授

(大阪市立大学大学院工学研究科)

教育施設・住宅・福祉施設などを対象とした建築計画学研究。2005年より現職。



山崎 亮氏

(株式会社 studio-L 代表)

地域の課題を地域に住む人たちが解決するためのコミュニティデザインに携わる。

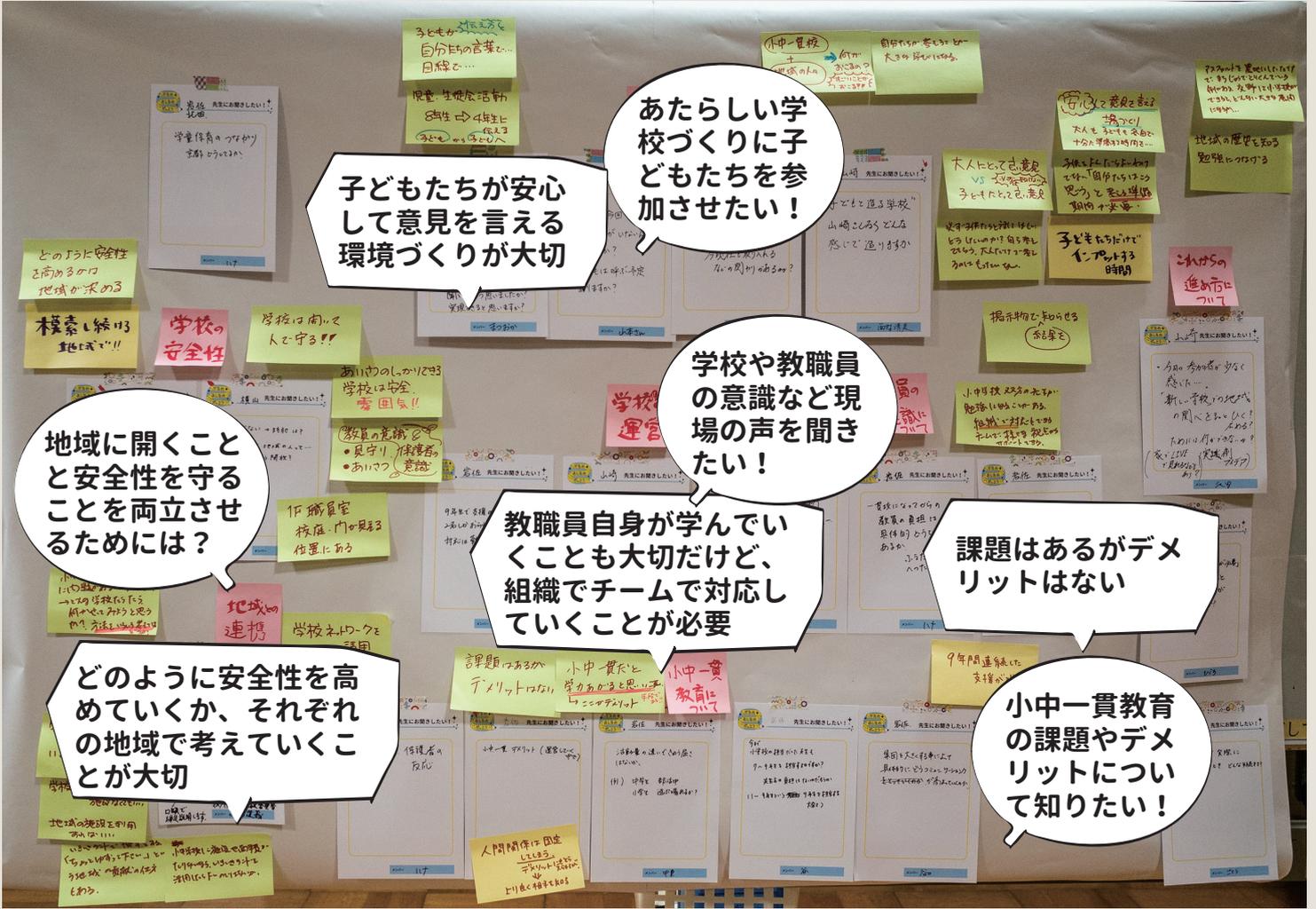
感想を共有しよう！

近くに座ったメンバーと3人程度のグループになり自己紹介したあと、講演会やトークセッションの感想を話し合いました。感想を共有する中で、気になったことやさらにゲストに質問したいことなどを感想カードに書き込んでいきました。書き込んだ感想カードを集めて整理したものを前に掲示し、みんなで眺めながら、意見交換を進めていきました。



意見交換 交野らしいあたらしい学校づくり

集めた感想カードを整理すると、「学校づくりへの子どもの参加・これからの進め方」「学校の安全性・地域との連携」「学校の運営・教職員の意識」「小中一貫教育」などのテーマについての意見が上がりました。これらについて意見交換する中で、これからの交野のあたらしい学校づくりにむけて、さまざまな可能性が見えてきました。



あたらしい学校づくりに子どもたちを参加させたい！

子どもたちが安心して意見を言える環境づくりが大切

地域に開くことと安全性を守ることを両立させるためには？

学校や教職員の意識など現場の声を聞きたい！

教職員自身が学んでいくことも大切だけど、組織でチームで対応していくことが必要

課題はあるがデメリットはない

どのように安全性を高めていくか、それぞれの地域で考えていくことが大切

小中一貫教育の課題やデメリットについて知りたい！

学校づくりへの子どもの参加・これからの進め方

突然子どもたちを参加させても大人の中で意見を言うことは難しい。子どもたちだけでインプットする時間をつくるなど、安心して意見を言える環境をつくるのが大切。それは子どもたちにとって大きな学びとなる。

学校の運営・教職員の意識

教職員の負担はあるが、教職員それぞれが学んでいくと同時に、組織でサポートしていくことが大切。このような地域と一緒に学校づくりを考える機会を活用し、学校内だけでなく、保護者や地域も巻き込んでいくことが大切。

学校の安全性・地域との連携

学校教育施設と社会教育施設を融合させていくことが魅力ある学校づくりにつながる。地域と一緒に安全性や連携のあり方を模索し続けたり、実際に活動したりすることで地域と学校の関係づくりが進んでいく。

小中一貫教育

小中一貫教育は子どもたちに9年間連続した支援ができる一つの手段。それ自体にデメリットはない。どう活用すれば効果を発揮できるかなど、考えながら実践していくことが大切。

次回のご案内

第3回みんなでやってみよう科「やってみよう活動を考えよう」
11月17日(日) 14:00-16:30
交野市役所別館3階中会議室

次回までの宿題

あたらしい学校でやってみようイメージできる、写真やパンフレットや冊子、webサイト等の情報をお持ちください！

製作：studio-L
発行：交野市教育委員会事務局
学校規模適正化室
〒576-0052
私部2丁目29番1号